

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

1 事業名	スケートのまちづくり事業	コード	113410
-------	--------------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 スポーツ振興課	作成者 小口 康生
--------	--------	------------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	スポーツの振興
		予算科目	スケートのまちづくり事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	スポーツ基本法第4条・第7条・第22条		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 （簡潔に）	アイスアリーナ等のスケート施設を活用し、多くの市民にスケートに触れ、体験してもらうため、スケート教室、ファミリースケートデー等を実施する。	
目的	対象者	市民
	意 図	市民スポーツの振興を図る。

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
下記の大会等の開催や支援を行った。		
【大会】9大会 991名 ・長野県チャレンジカップショートトラックスピードスケート選手権やまびこ大会（9/30・92名）、岡谷市長杯争奪長野県ジュニアアイスホッケー大会（10/21・22・150名）、国民体育大会フィギュアスケート競技会長野県予選会 兼 長野県高等学校総体フィギュア競技会（11/18・15名）、やまびこカップスピードスケート競技会（12/3・298名）、長野県ジュニアスピードスケート競技会（12/23・249名）、国民体育大会スケート競技会長野県予選会（12/24・69名）、市民スケート大会（1/7・70名）、長野県ジュニアショートトラックスピードスケート選手権岡谷大会 兼 長野県ショートトラックスピードスケート選手権大会岡谷大会（2/25・32名）、市民カーリング大会（3/4・16名）		
【教室】6教室 1,162名 初心者スケート教室（10月～11月・121名）、アイスホッケー教室（12月・40名）、カーリング教室（12月～2月・24名）、おかやスピードスケートトータルサポートクラブ 初心者～上級者（7月～2月・482名）、おかやスピードスケートトータルサポートクラブ アスリートコース（6月～2月・413名）、親子で氷上運動会（11/3・82名）		
【ファミリースケートデー】7回 1,570名 アイスアリーナ（11月～2月・4回・445名）、やまびこ国際スケートセンター（12月～2月・3回・1,125名）		
前年度の課題への対応	「多種目スケート教室」については、スケートを始めるきっかけづくりとして、フィギュアスケート教室とスピードスケート教室を併せて一本化し、初心者スケート教室を実施した。	

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	大会等開催数			単位	回
実績値	21	26	22		
*指標の説明	大会・教室・ファミリースケートデーの開催数				
② 成果指標（指標名）	大会等参加者数			単位	人
目標値	5,309	4,855	4,598	4,648	
実績値	4,598	4,648	3,723		
達成度	86.6%	95.7%	81.0%		
*指標の説明	大会・教室・ファミリースケートデーの参加者数				
*目標値の設定方法の説明	過去3年間における実績の最大数				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	3,975,681	4,033,547	3,692,496	3,781,000
経常経費	3,975,681	4,033,547	3,692,496	3,781,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000
正規職員の人数(人)	0.45	0.45	0.45	0.45
③ 合計コスト(①+②)	7,575,681	7,633,547	7,292,496	7,381,000
前年度比		100.8%	95.5%	101.2%
財源				
一般財源	7,242,081	7,361,347	7,097,396	6,916,000
内訳 特定財源	333,600	272,200	195,100	465,000
* 特定財源の説明	スケート教室受講料			
④ 活動一単位あたりコスト	360,747	293,598	331,477	
前年度比		81.4%	112.9%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 80.1%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 81.0%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) スケート人口等の底辺拡大を図るとともに、競技人口の拡大及び競技力の向上が課題である。	
	改善方法	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容) ・2018年平昌冬季オリンピックの日本人選手の活躍による、アイススポーツへの関心の高まりを継続させ、スケート競技人口の増加を図り、各種事業を効率的・効果的に実施するため、スケートのまちづくり事業で引き続き実施する。 ・スケートを始めるきっかけづくりとして、スピードスケート教室とフィギュア教室を一本化した初心者スケート教室の実施により、競技人口の増加を図る。
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	-------------------------------------------	---